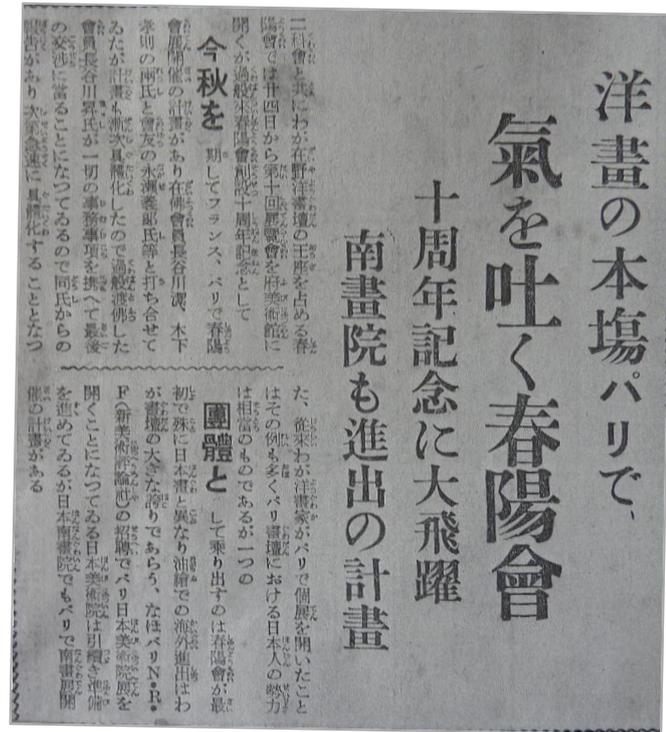


報道 「洋画の本場パリで

気を吐く春陽会 十周年記念に大躍進

南画院も進出の計画



二科会と共にわが在野洋画壇の王座を占める春陽会では廿四日から第十回展覧会を府美術館に開くが、過般来春陽会創設十周年記念として**今秋**を期してフランス、パリで春陽会展開催の計画があり、在仏会員長谷川潔、木下孝則の両氏と会友の永瀬義郎氏等と打ち合わせてみたが、計画も漸時

具体化したので、過般渡仏した会員長谷川昇氏が一切の事務事項を携へて最後の交渉に当ることになってゐるので、同氏からの報告があり次第急速に具体化することとなった。従来わが洋画家がパリで個展を開いたことはその例も多くパリ画壇における日本人の勢力は相当なものであるが、一つの**団体**として乗り出すのは春陽会が最初で、殊に日本画と異なり油絵での海外進出はわが画壇の大きな誇りであらう。なほ、パリNRF（新美術評論社）の招聘でパリ日本美術院展を開くことになってゐる日本美術院は引続き準備を進めてゐるが、日本南画院でもパリで南画展開催の計画がある。

〔東京日日新聞〕 昭和七年四月

*「この年（昭和七年）、サロン・ドートンヌより招待を受けたが出品しなかつた。」〔春陽会七〇年史〕

1932 April

昭和7年4月 報道「春陽会展をパリで開く」 東京日日新聞